

IBEKA(Inisiatif Bisnis dan Ekonomi Kerakyatan, People-centered Business and Economy Initiative)訪問調査記録

[訪問日時]

- ①2018年9月17日(月) 9:30 – 12:00
- ②2018年9月18日(火) 9:00 – 15:00

[場所]

- ①IBEKA ジャカルタ事務所
Jl. Sulaiman No. 18-A, RT/RW 02/03, Kelurahan Sukabumi Utara, Kecamatan Kebon Jeruk, JAKARTA BARAT. 11540.
- ②IBEKA 本部
Butterfly Heaven, Kampung Panaruban, Desa Cicadas, Kecamatan Segala Herang, Kabupaten Subang

[先方]

- ①Adi Laksono、Pradygdha K JATI
- ②Tri Mumpuni Iskandar(Executive Director)、Iskandar Budisaroso Kuntoadji、Adi Laksono、Nunuk S.Nutuh Aliyah

[当方]

田中直、堀尾孝子

[内容]

○団体概要

設立: 1992年
代表者: Tri Mumpuni Iskandar
本部: 上記②
役員・スタッフ: 51名
活動: 小規模水力発電、風車、バイオガス

○活動内容他

以前、バンドゥンを拠点とする適正技術の NGO、マンディリ財団(Yayasan Mandiri)があったが、そのマンディリ財団から、ベンケル(機械加工や溶接を行うワークショップ)のグレードアップと水力発電の普及をめざす人たちが独立して、1992年に IBEKA を設立した。

※APEX では、団体の設立に先立つ 1986 年以降、Yayasan Mandiri を 3 回ほど訪ねている。

創設者は、Iskandar Budisaroso Kuntoadji 氏。現在、代表を勤めている Tri Mumpuni 氏は、その妻である。Tri 氏は、2011 年にマグサイサイ賞を受賞している。2000 年代初めに APEX 事務所を訪ねたことがあるが、田中は不在だったという。

主たる活動である小規模水力発電では、これまでに累積 72 基を設置。規模は、5kW～

480kW。うち 67 基はオフ・グリッド(無電化地域)、5 基は電力公社に売電している。72 基のうち、71 基までは、外部から援助資金を得て設置したもの。1 基は、半額は援助、半額は民間投資である。設置コストは、設置場所の条件や規模で異なるが、1,000～2,500USD/kW 程度。72 基のうち、継続して動いているものの基数を訪ねたが、モニタリングはできていない模様。

水力発電設備の設計は Isakandar 氏が行い、外注生産している。製造しやすいクロス・フロータイプを採用。蓄電池は設置しておらず、緊急時はダミーロードで一定時間維持している間にロードオフする。

発電した電気の使い道として、電力公社に売電しない場合、照明などの家庭用電源、食品加工などの小産業の電源とするなど。水力発電による電力の固定価格買取制度は価格が不安定で、かつ 15-20 年で設備を電力公社に引き渡さなければならないという制約があり、なかなか投資する人がいない。

2013 年より小型の風力発電装置の普及も手がけており、これまでに無電化地域に 500W のものを 100 基設置している。これはプルトミナ(国営石油会社)の CSR 活動として行われているもので、設置費用は 700 米ドル/基(蓄電池代別)。

IBEKA の手法は、まずスタッフを対象村に住まわせて、社会的・地理的・セクター的(social, spacial, sectoral)な視点から、村のプロフィールをつくり(mapping)、ついでどうすれば村の生活を向上させることができるかについて提案をつくり、それを村人自らが欲するものとする、というもの(Iskandar 氏による)。

また、この訪問時にも、インドネシアの大学生を対象とする、再生可能エネルギーについてのワークキャンプが行われていたが、これからの持続可能な世界を担う人材育成にも力を入れている。

ついで、事務所の近くにあるバイオガス設備ならびに水力発電設備を見学した。バイオガス設備は、10 頭の牛の排泄物を集め、水と混合して発酵槽に導き、そこでメタン発酵を行って、ガスを得、調理用に利用するもの。水力発電設備(Cintamekar、2004 年運転開始)は、能力 120kW(60kW×2 基)で、発電した電気は電力公社に売電している。訪問した時は稼働していなかった。UNESCAP のプロジェクトで、半分はオランダの助成、半分は民間投資。売上は、月に 3000 万ルピアほどであるが、運転経費を差し引いた純利益としては 1000 万ルピア程度。これは IBEKA としては特殊ケースであり、通常はもっと小型でシンプルなものとしている。

(感想)

技術そのものよりも住民参加型の技術導入を重視している観がある。水力発電は、経済的な実行可能性としては、現状では相当に厳しく、固定価格買取制度の強化などの支援がないと普及は進まないように見えた。IBEKA としては、APEX のバイオマスガス化技術に関心を持っており、協力してプロジェクトを行いたいとのことであった。(田中)

(受領資料)

- ・ IBEKA (団体紹介)
- ・ Profile IBEKA(団体プロフィール)

ともに電子ファイルとして受領



ジャカルタ事務所での打ち合わせ



スバン県の本部での打ち合わせ



Cintamekar 水力発電所



Cintamekar 水力発電所(タービン)



再生可能エネルギーに関するワークキャンプ



ワークキャンプ用の小型水力発電キット